

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地			
広島工業大学専門学校	昭和59年1月14日	坂本真平	〒733-8533 広島県広島市西区福島町2-1-1 (電話)082-295-5111			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人鶴学園	昭和32年11月27日	鶴衛	〒731-5193 広島県広島市佐伯区三宅2-1-1 (電話)082-921-3121			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士		
工業	工業専門課程	機械工学科	平成17年文部科学省 告示第176号	-		
学科の目的	機械加工に関する知識・技能および品質管理などの生産管理知識を修得させ、製造現場のリーダーとなる人材を育成する。					
認定年月日	平成26年3月31日					
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技
2年	2.016	1.312	0	1.088	0	0
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人	48人	12人	4人	8人	12人	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌年3月31日		成績評価			
長期休み	■学年始:4月4日 ■夏季:7月23日～8月31日 ■冬季:12月23日～翌年1月7日 ■学年末:3月18日～4月3日		卒業・進級条件			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 出席率不良(80%未満)学生について、個別の状況把握に努め早期対応を行う。長期欠席者に対しては学科長、校長等が本人に対して保護者を交えて生活指導・進路指導を行う。		課外活動			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) (株)日本製鋼所、広島アルミニウム工業(株)、シーコム(株)等 ■就職指導内容 学生向け就職ガイダンス、生き方講座SPI・面接指導等 ■卒業生数 32人 ■就職希望者数 27人 ■就職者数 27人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 84% ■その他 広島工業大学 編入学者 5名		主な学修成果(資格・検定等)※3			
中途退学の現状	■中途退学者 4名 令和3年4月1日時点において、在学者57名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者53名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更(分野変更)、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 主にチューターが相談窓口となり、学科長、校長等が本人に対して保護者を交えて進路指導を行い、中退防止に努めている。		■中途退率 7.0%			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 広島工業大学専門学校同窓会奨学金(給付型・年額6万円) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)					
当該学科のホームページURL	http://www.hitp.ac.jp/					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科学第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

現場で求められる専門知識・技術・資格および専門性に関する動向等について、企業等と連携してカリキュラム編成や授業内容・方法等の改善を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業・業界団体等と連携し、各課程及び学科における技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上及び教員の資質・指導力向上等を図ることを目的に、広島工業大学専門学校学則第50条により産学連携協議会を設置し、その中に、教育課程編成委員会を置く。当該委員会では、以下の事項を審議し、審議結果は教育部長及び各学科長が中心になって教育課程を見直す。

- ①教育課程の編成及び実施
- ②教育計画に関する事項
- ③教材の開発等

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

学校関係者委員

令和4年3月31日現在

名前	役職・所属	職責等
坂本 眞平	校長	教育課程編成委員会責任者
瀧口 啓倫	教頭	委員
竹田 睦	機械工学科長	委員
栗栖 徹	機械工学科教員	委員
藤本 幹雄	機械工学科教員	委員

企業関係者委員

令和4年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
鈴村 文寛	広島工業大学工学部機械システム工学科	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	②
田中 康平	テンパール工業株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 6月、翌年2月

(開催日時(実績))

第1回 令和3年 5月28日 15:00～17:00(オンライン会議)

第2回 令和4年 2月22日 15:00～17:00(オンライン会議)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会等の意見	学科の対応
現在、企業連携授業として取組んでいるゼミナールのテーマは、SDGsにおいても3番4番辺りに関係する良いテーマであり、この辺りもアピールすると良い。発表内容も良く商品化も目指して欲しい。	企業連携授業の一環として、実践課題ゼミナールにて(PBL)を実施している。現在、福祉施設とのタイアップによって設備開発を提案しているが、ようやく形が見えてきたテーマもあり、商品化を見据えた次のステップも検討したい。一方で、SDGs等を通して、本授業の位置付けを明確にし、外部を含め共有できるようアピールにも力を入れていく。
技能検定受検者の減少に関して、企業では受験を推奨している資格であることを学生に伝えてほしい。技能検定以外にも保全に関しては、自主保全士等の資格も推奨している。参考にしてほしい。	資格・検定試験は、専門学校として重要なファクターであり、その価値を学生へ伝えることも必要不可欠である。委員のご意見を踏まえ、改めて学生へ周知し、受験者数の増加を目指す。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

機械加工を中心とするものづくりの現場における技術・技能を学生に身に付けさせるため、ものづくりへの意識が高く、機械加工技術に優れている企業を選定し、当該企業の技術者を講師とする実践的な授業を展開することとする。また、同時に実習における学習成果等に対して評価を行う体制を学校と連携して取ることが可能な企業であることとしている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

授業科目「実践課題ゼミナール」において、地元企業と連携を図り、当該企業より講師を依頼し実践的な授業を展開している。学期初めには、「キックオフミーティング」と題し、連携企業先の講師とミーティングを行う。学習の中盤及び後半では、各グループ毎に進捗・成果をプレゼンし、企業の講師に評価頂いている。企業からの仕事の依頼という形でタイアップも実施しており、学生の学習意欲を啓発し、より実践的な実習を行っている。

グループワークによる総合的な課題実習に取り組むことで、生産現場に必要な応用力をはじめ、理論的な実験・検証を通し、問題解決能力へつながる論理的思考の育成にもつながっている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実践課題ゼミナールⅠ	2年前期の開講科目であり、これまでに修得した加工の知識・技能を活かしグループワークで課題解決を行う応用実習である。各グループで製作物を起案し、設計から加工までの一連の流れの体験学習する。後期開講科目の実践課題ゼミナールⅡを継続受講する。	共立工業株式会社 ふれあいライフ原
実践課題ゼミナールⅡ	2年後期の開講科目であり、実践課題ゼミナールⅠより継続して受講する必要がある。製作の進捗状況は、定期的(初期・中間・最終)に報告会で発表し、企業講師による評価を受ける。評価に基づき、課題を解決しながら年度末までに完成を目指す。	共立工業株式会社 ふれあいライフ原

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員が、当学科における急速に変化する経済社会のイノベーションに対応できるよう、専門的な知識や技術・技能を高め、また、学生に対する指導力等の向上を図るため、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会での審議を通じて示された意見や情報等を十分に把握した上で以下の研修等を計画・実施し、それに参加することで教育活動の充実に努めることを基本方針とする。教員の資質・指導力向上等については、「広島工業大学専門学校教員研修に関する内規」に基づき、専門能力向上および指導力向上を図るための研修を行うこととしている。

- ①企業が開催する研修会
- ②協会主催学術講演会・講習会・研修会
- ③業界団体主催の研修会

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

対象	研修名称	主催	研修期間	研修内容
教員	広島県立総合技術研究所西部工業技術センター保有技術紹介セミナー	広島県立総合技術研究所	令和3年11月18日	【研修目的・概要】最新技術の動向調査を行い、専門分野の技術の拡充を図るため、セミナーに参加し、西部工業技術センターの研究成果や保有技術への理解を深めた。 【講師】西部工業技術センター 藤井俊男 他 【対象科目】ものづくり概論 実践課題ゼミナール
教員	広島県AI・IoT・ロボティクス活用研究会 令和3年度第1回研究会(オンライン)	広島県立総合技術研究所西部工業技術センター	令和4年2月1日	【研修目的・概要】IoT技術をはじめ、AIを導入した技術開発について、企業における導入事例を通し、作業効率の改善を行うシステム開発事例をはじめ、製造業自動化について知見を広げる為、研修会へ参加する。 【講師】内閣府SIP 立命館大学代表プロジェクト事業化推進事務局 副事務局長 岡田 智則氏 【対象科目】ものづくり概論 NC工作概論

②指導力の修得・向上のための研修等

対象	研修名称	主催	研修期間	研修内容
教員	大社接続セミナー ～社会・企業の変化からこれからの学生に求められる力を考える～	株式会社ベネッセコーポレーション	令和3年10月14日	【研修目的・概要】 AI、IoT、5G等DX（デジタルトランスフォーメーション）は、あらゆる産業・場面において、働き方に大きな変化をもたらしている。この研修では、DX化に伴う企業の変化から、これからの学生に求められる人材像の変化について聴講し、新たな時代のキャリア教育について理解を深めた。 【講師】 東洋大学就職・キャリア支援部 腰山 雅基 【対象科目】 授業全般
教員	3つのポリシー（AP・CP・DP）の考え方	広島工業大学 専門学校	令和3年11月11日	【研修目的・概要】 大学では、学校教育法施行規則の改正により、3つのポリシーの策定と公表が義務づけられている。専門学校に対しても、将来、3つのポリシーの策定が義務化される事が考えられる。このため、3つのポリシーの考え方について教職員で共有した。 【講師】 鶴学園 法人局総合戦略部 次長 村尾 真也 【対象科目】 学校業務全般 各担当教科
教員	情報セキュリティ研修 (オンライン)	鶴学園	令和4年 1月17日～ 1月31日	【研修目的・概要】 組織（学校）における情報セキュリティの重要性と仕組みなどを十分理解し、日常業務などにおいても常に実践できるようにする 【講師】 株式会社ネットスクエア 村上 賢二 【対象科目】 学校業務全般 生き方講座

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

対象	研修名称	主催	研修時期	研修目的・概要
教員	Conference X in 広島2022	中国経済連合会 株式会社 INDUSTRIAL-X	令和4年4月27日	【研修目的・概要】 近年のDX化に伴いビジネスモデルが著しく変革している。こうした新技術を一早く導入した、企業の取組事例を調査する為、研修会へ参加した。 【講師】 株式会社山本金属製作所 代表取締役社長 山本 憲吾 他 【対象科目】 ものづくり概論 機械加工学 授業全般
教員	広島県高精度切削加工研究会	広島県立総合技術研究所	令和4年	【研修目的・概要】 切削技術に関し、基礎学問から応用まで専門性の向上を図る為、講習会へ参加する。 【対象科目】 機械加工学・機械工作実習・技能検定対策
教員	精密工学会中四国支部講習会	精密工学会 中四国支部	令和4年	【研修目的・概要】 機械加工に関する技術習得・情報収集を行い専門力向上を図る。 【対象科目】 機械加工学・ものづくり基礎実習

②指導力の修得・向上のための研修等

対象	研修名称	主催	研修時期	研修目的・概要
教員	普通救命講習	広島市救急教育センター	令和4年8月18日	【研修目的・概要】 学生の命を守るため、緊急時に備え、心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の使用法、止血方法など応急手当の知識・技術を学ぶ機会とする為、講習会に参加する。 【講師】 消防署 救急隊員 【対象科目】 学校業務全般 生き方講座
教員	インターンシップの参加促進に係る研修会	広島工業大学 専門学校	令和4年8月18日	【研修目的・概要】 職業観の育成が主であったインターンシップが就職活動の一環としての位置付けへ変化している。今後のインターンシップは、どのようなニーズのもとでどのような形態で実施されていくのか、現状を把握するとともに、参加推進に取り組める環境を構築する為、研修会に参加する。 【対象科目】 生き方講座 就職活動

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業・業界団体・学校関係者・卒業生等の委員で構成される学校関係者評価委員会を構成し、自己評価報告書を基に教育目標に沿った人材育成や学校運営等の教育活動を評価することで、各課程及び学科における教育への取り組みの改善等を促進し、教育の質の保証・向上並びに教員の資質・指導力向上等を図る。

当該委員会では以下の事項について評価・助言を求める。

- ① 自己評価の内容
- ② 自己評価の結果に基づく今後の改善方向
- ③ 学校運営に向けた取り組み
- ④ 重点的教育の取り組み内容

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果並びに改善事項は、教職員全員で共有するとともに、各課程及び学科における具体的対応の検討結果を教育課程編成委員会に反映させることで、次年度の教育課程のその他学校運営の改善に活用し、技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上及び教員の資質・指導力向上等を図る。

学校関係者評価の意見等	活用状況
コロナ禍での事業運営に関しては、大変努力されていることを感じる。こうした環境下では、日々の健康管理をはじめ、オンライン等遠隔での授業等人との触れ合いが減少し、メンタル面が心配であるが、この点について対応された点があれば教えてほしい。	本校在校生には、県内外含め、一人暮らしの学生もいる。健康管理に関しても学校で検温が出来るよう対応を行ったことをはじめ、保健室の先生が毎朝入口に立ち一人一人に声掛けを行うとともに、必要に応じてTeamsを用いた個別連絡を実施し、メンタル面も含めたアフターケアにあたった。その結果、家族からの感染ルートの判明やコロナ以外の病気を事前に発見することに繋がり、きめ細かな指導が効果を成した。教職員に関しても毎年外部機関によるストレスチェック等を実施し、メンタルチェックを行っている。
各学科でコロナの影響を受けているようであるが、特に音響映像メディア学科に関して、コロナ禍による影響が大きいとの話があったが、近年話題になってきたバーチャルな世界(メタバース)などの対応はどうか。	本学科の一大イベントであるコンサート実習をはじめ、外部へ発信する対面のイベントが軒並み中止になった。無観客のステージイベント等を行って対応をしたが、この業界の醍醐味は観客に向けたイベント作成であるが故に、その影響は大きい。一方で、対面が変わるイベントとしてオンラインによる配信という新たな教育に取り組みを始めている。業界においても委員のご質問の通り、メタバース等VRをはじめとした新しい取り組みを始めており、業界の動向を見守りながら対応していきたい。しかし、教育課程編成委員会でも話に出ているが、この業界の一番の望みは、対面によるイベントで演者と観客が一体となるステージを構築したい。これが皆の願いであるように感じている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

学校関係者委員

令和4年3月31日現在

名前	役職・所属	職責等
坂本 眞平	校長	学校関係者評価委員会委員長
瀧口 啓倫	教頭	委員
竹田 睦	教育部長	委員

企業関係者委員

令和4年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
山 口 健 治	学校法人鶴学園 広島工業大学高等学校	令和2年4月1日～令和4年3月31日（2年）	高校
梶 川 祐 朗	一般社団法人 広島県情報産業協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	業界団体
吉 川 滋	公益財団法人 日本照明家協会中国支部	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	業界団体
田 中 康 平	テンパール工業株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	企業
宮 内 秀 実	河井建設工業株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	企業 地域
大 島 晋 也	広島工業大学専門学校同窓会	令和3年4月1日～令和5年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 毎年9月末
 URL: <http://www.hitp.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動及び学校運営の状況とそれらの自己評価報告書を、学校関係者評価委員会並びに教育課程編成委員会の企業・関係業界・学術機関の委員に配布・公開し意見を求めることで、理解と助言を求め、もって教育の質保証・向上を図ることを基本方針としている。併せて、関係事項をホームページだけでなく、学生募集関係文書、採用案内関係文書等で広く公開し、積極的な情報提供を行っている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	国際連携の状況
(11) その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

職業実践専門課程に関する情報は、各種メディアを通じて提供しています。

URL: http://www.hitp.ac.jp/	随時更新(職業実践専門課程認定に伴う更新 7月、12月)
学習プレゼン大会(学校行事)の開催	2月(職業実践連携企業、内定先企業、高等学校、保護者、新入学生等に広く案内)
学校案内パンフレット	4月以降配布(入学希望者向け)
就職案内パンフレット	3月以降送付(求人企業向け)

授業科目等の概要

(工業専門課程機械工学科) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生き方講座Ⅰ	業界の理解とキャリア意識の向上・自己理解し、自己肯定意識の向上	1前	32	1			○	○		○		
○			生き方講座Ⅱ	就職基礎能力の養成・「主体的行動力」「考える力」の育成・社会人基礎力を養成	1後	32	1			○	○		○		
○			生き方講座Ⅲ	一般常識、SPIテストの実施・講演、講話を通して社会人意識の向上・ボランティア活動を通して社会貢献の意味の理解	2前	32	1			○	○		○		
○			生き方講座Ⅳ	社会人基礎能力の養成・社会人の「規律性」や「ストレスコントロール力」の育成	2後	32	1			○	○		○		
○			文章技術	明快で論理的な「レポート」「実習報告書」等の作成能力を育成すると共に、論理的な思考を養う。	1前	32	2	○			○			○	
○			情報処理リテラシーⅠ	コンピュータを使用する上で必要な知識を修得する。Wordを中心に入力速度の向上を図る	1前	32	1			○	○			○	
○			情報処理リテラシーⅡ	コンピュータの基礎知識と操作法習得・簡単なExcelを使ったデータ処理・PowerPointを使った発表資料作成を行う。	1後	32	1			○	○			○	
○			情報技術基礎Ⅰ	基礎的な情報処理について修得・コンピュータの基礎、流れ図・2進数、論理演算、ブール代数	2前	32	2	○			○			○	
○			情報技術基礎Ⅱ	基礎的な情報処理について修得・カルノー図の学習・ディンジョンテーブル、KJ法などの意志決定手法の学習	2後	32	2	○			○			○	
○			ものづくり概論Ⅰ	加工機械操作のための知識習得・測定・検査について学習・マイクロメータ、ノギスの使用法の学習	1前	32	2	○			○			○	
○			ものづくり概論Ⅱ	製造で行われる加工法の習得・鋳造の用語と鋳造法について学習・各種工作機械の特徴と加工対象の学習	1後	32	2	○			○			○	
○			機械材料Ⅰ	機械構造物で使われる材料について学習・金属材料の種類、組織、性質の理解・熱処理などについて理解	1前	32	2	○			○			○	

○		機械材料Ⅱ	鋳鉄および非鉄金属中心について学習・鋳鉄の種類および性質について学習・非鉄金属および非金属の種類と性質について学習	1 後	32	2	○			○					○
○		材料力学	機械の各部材が受ける力について理解。引張り、圧縮等の力のかかり方やモーメントについて学習する。	1 後	32	2	○			○					○
○		機械力学	機械設計・製造を行う場合に必要となる構造や負荷について学習。簡単な構造の荷重計算の演習を行う。	1 前	32	2	○			○					○
○		機械加工学Ⅰ	旋盤を中心とした加工知識の習得・旋盤の仕組み、加工刃物などの学習・逃げ角、すくい角、刃物送りなどの学習	1 前	32	2	○			○					○
○		機械加工学Ⅱ	旋盤を中心とした加工知識の習得・作業の服装や心構え・段取り、刃送りの、切削状態の学習・切削加工の方法	1 後	32	2	○			○					○
○		機械設計Ⅰ	機械設計の基礎理論の習得・機械要素の強度や寿命計算の学習・ネジ、キー、軸などの設計	2 前	32	2	○			○					○
○		機械設計Ⅱ	機械設計の基礎理論の習得・軸受けの種類と寿命や定格荷重計算・歯車の種類とモジュール、圧力角の決定方法の理解	2 後	32	2	○			○					○
○		電気・電子回路Ⅰ	電気の基礎的な知識を学習。・電流・電圧、抵抗などの性質の理解・電気部品の記号と性質を理解し、簡単な電気図面が理解できる知識の習得	2 前	32	2	○			○					○
○		電気・電子回路Ⅱ	交流回路について学習。・交流で使用する部品の性質や各種計算式の理解・ICを用いた増幅回路の理解	2 後	32	2	○			○					○
○		熱力学Ⅰ	熱力学の意義をはじめ、熱力学の第一法則、熱力学の第二法則、作動流体の状態変化など熱力学の基本概念について学習する	1 後	32	2	○			○					○
○		熱力学Ⅱ	熱力学の応用として、エクセルギー、エネルギー変換、更にはサイクル論を中心とした熱機関、冷凍機・ヒートポンプなどについて学習する。	2 前	32	2	○			○					○
○		安全衛生工学	労働安全・衛生の取り組み方と精神を修得する。・企業における安全衛生の進め方、設備・環境の整備などについて学習。	1 前	32	2	○			○					○
○		ロボット工学Ⅰ	ロボットの構造や動作機構の修得・ロボットの種類・意味・動力、機構などハードの構造を理解	2 前	32	2	○			○					○
○		ロボット工学Ⅱ	ロボットの制御方法や動作決定の修得・制御の種類と特徴の学習・状態遷移図など動作検討の手法を学習	2 後	32	2	○			○					○
○		精密加工学	精密加工の必要性、方法などの学習・精密加工の必要性、測定、修正の重要性・各種精密加工手法について学習	2 後	32	2	○			○					○

○		NC/MC実習Ⅰ	NC加工の基本操作を理解するとともに、機械加工技能検定数値制御旋盤ならびにマシニングセンタ作業3級に受験できる技術を学ぶ。	2 前	64	2			○	○	○	△	
○		NC/MC実習Ⅱ	高度な精密加工およびCADデータからGコードまたは、アディティブ・マニュファクチャリングを行い、実践的加工を学ぶ。	2 後	96	3			○	○	○	△	
○		三次元CAD実習	inventorを利用して3次元CADについて操作を学ぶ	2 前	64	3			○	○	○		
○		実践課題ゼミナールⅠ	修得した加工の知識・技能の応用実習・各グループで製作物を設計から加工までの一連の流れの体験学習	2 前	64	3			○	○	△	○	○
○		実践課題ゼミナールⅡ	修得した加工の知識・技能の応用実習・各グループで製作物を設計から加工までの一連の流れの体験学習	2 後	64	3			○	○	△	○	○
	○	インターンシップ	企業での就業体験・製造業での仕事体験・仕事の雰囲気、仕事の意味などを理解	1 後	64	2			○	○	○	○	○
合計					53科目		2,080単位時間(96単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。